

平成26年12月 3日

関係機関の長 殿

国立大学法人東北大学
加齢医学研究所長 川島 隆太
(公印省略)

平成27年度東北大学加齢医学研究所共同研究の公募について

このたび東北大学加齢医学研究所では、加齢医学に関する共同利用・共同研究の公募を行うことになりました。

つきましては、同封の公募要領のとおり公募いたしますので、貴機関の各研究者に周知くださるようお願いいたします。当研究所のホームページでも公募要領及び申請書を掲載しており、英語版もございますのでご活用ください。<http://www.idac.tohoku.ac.jp/ja/joint/index.html>



平成27年度東北大学加齢医学研究所
共同利用・共同研究公募要項
(Application Procedures for Joint Research Program
with IDAC Tohoku University)

東北大学加齢医学研究所は、国立大学法人のなかで唯一、加齢医学研究を標榜している附置研究所です。21 世紀において世界一の長寿国となった我が国においては、超高齢社会に対応して、「認知症等の脳・神経疾患」「難治性癌」など、本研究所が目指す「加齢医学研究」の重要性と期待はますます高くなってきております。そこで今後は、「健康寿命の延伸を目指した加齢医学研究」を中心に、広く研究者に開かれた共同利用・共同研究を実践することにより、生命・医学系研究所として中核的役割を果たし、全国の研究者の要請に応えることを目指しております。平成21年6月25日、本研究所は「加齢医学研究拠点」の名称で、共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣により認定されました。従って、第2期中期計画の期間である、平成22年度から27年度までの6年間、拠点としての活動を推進することとなります。平成 27年度の共同利用・共同研究においては、本研究所の基盤技術をもとに、研究所内の最新鋭の設備・資源を利用し、所外の研究者が本研究所の教員と共同で、本研究所において行う以下の研究を募集し、実施します。

(1)モデル生物を用いた加齢研究領域

加齢医学研究の最終目標は、ひとの健康寿命の延伸にあります。しかしながら、加齢に関連する現象を分子レベルや細胞生物学の言葉で理解するためには、モデル生物を用いた基礎的研究が必須です。本研究所では早い時期から、マウスを含む様々なモデル生物を用いた多彩な研究が行われ、成果を上げてきました。そこでこれらモデル生物を用いた、老化を含む加齢関連研究領域の共同利用・共同研究を募集します。

(2)加齢・発生分化・生体防御の基盤的研究領域

各種ストレスによる細胞老化は、種々の加齢疾患の原因と考えられます。本研究所では細胞のストレス応答、ゲノム変異、タンパク質の機能変化によりもたらされる細胞・個体の老化について研究を進めてきました。特に細胞老化に対して作動する生体防御機能に関して、それら遺伝子群の疾患モデルマウスを作出し顕著な成果を生み出してきました。一方で加齢・発生・細胞分化のメカニズムについても、研究遂行に有用な様々な細胞株・遺伝子資源・抗体・遺伝子改変マウスを、樹立・提供してまいりました。近年はさらにタンパク質局在のリアルタイム解析やタンパク質複合体のプロテオミクス技術なども開発しております。これら基盤的研究における本研究所の実績と研究資源を活用する共同利用・共同研究を募集します。

(3) 腫瘍制御研究領域

細胞のがん化も加齢に伴うゲノム変異の集積によってもたらされます。本研究所は、がんの研究領域においても、我が国初の腫瘍バンクの設置やがん化学療法部門の開設など多くの先進的実績をあげてきました。また近年は、がんの遺伝子診断、がんの個性に応じたテーラー・メイド医療、腫瘍血管を標的とする抗腫瘍療法などにも取り組んでおります。これら、がんの基礎的・臨床的研究の実績のかかなりの部分は共同研究による裏付けを伴うものであり、伝統に培われたノウハウを活用する、腫瘍制御研究領域に関する共同利用・共同研究を募集します。

(4) 脳の発達・加齢研究領域

本研究所では脳イメージング装置と画像解析技術を駆使して、脳画像データベースによるヒトの脳形態加齢変化の研究、脳機能イメージング研究とその応用による認知機能の加齢制御研究、認知症の早期診断と予防研究などの学際的共同研究を展開してきました。また最近、加齢老年医学研究分野、認知機能発達寄附研究部門を設置して、小児から高齢者までを対象とする研究推進体制を整えました。さらに、超高磁場 MRI 装置、二光子顕微鏡など最先端の脳イメージング装置群を整備し、細胞レベルからヒトの認知レベルまでの脳発達・加齢研究を展開し、共同利用・共同研究に提供できる体制にあります。これらの設備を活用する、脳の発達・加齢領域の共同利用・共同研究を募集します。また人文社会科学的な見地を加味した加齢研究も歓迎します。

1. 公募事項

A 募集テーマ

- (1) モデル生物を用いた加齢関連の研究
- (2) 加齢・発生分化・生体防御の基盤的研究
- (3) 腫瘍制御に関する研究
- (4) 脳の発達・加齢に関する研究

B 提供材料・設備

本研究所・共通利用機器室に設置の機器類、本研究所の有する細胞株・遺伝子資源・抗体・遺伝子改変マウス、マウス以外のモデル生物各種、生細胞核局所照射装置、プロテオーム解析技術、二光子顕微鏡、3T 磁気共鳴装置、光トポグラフィ装置、脳磁計測装置(MEG)、小動物用7T磁気共鳴装置、など

2. 申請資格者

大学並びに公的研究機関に所属する教員・研究者・大学院生

3. 研究期間

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

※継続課題は累計3年までとする。

4. 申請方法

申請書等の各様式は、本研究所のホームページからダウンロードしてご使用ください。

共同研究を希望される方は、本研究所の受入教員と事前に打合せを行ったうえ、申請してください。

本研究所の各研究分野・所属教員・研究の概要等は、本研究所ホームページを御覧下さい。

ホームページ <http://www.idac.tohoku.ac.jp/index.ja.php>

共同研究への申請者は、申請書「様式1」(別紙1・2を含む)を作成し、所属機関の長の承諾書を添えて提出して下さい。

5. 申請書提出期限

平成 27 年 1 月 31 日必着。

6. 申請書提出先

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 4 番 1 号

東北大学加齢医学研究所 研究協力担当専門職員宛て

電話:022-717-8445(ダイヤルイン) FAX:022-717-8452

電子メール: ida-sen@bureau.tohoku.ac.jp

7. 採否

共同研究の採否は、学外の学識経験者を含む共同利用・共同研究委員会において決定後、3 月 31 日までに、申請者へ直接通知します。

なお、採択された場合、研究代表者及び分担者の方々には、「東北大学加齢医学研究所共同研究員」として委嘱いたします。

8. 所要経費

共同研究に必要な研究経費(消耗品費及び旅費など)は、各テーマ 50 万円を上限として本研究所で負担します。

ただし、特に必要と認める場合には 100 万円を上限とします。(1~2 件程度)

9. 共同研究報告書の提出

研究代表者は、平成 27 年度の研究成果を A4 版 2~3 枚程度にまとめ、平成 28 年 3 月 31 日までに「6. 申請書提出先」へ提出して下さい。報告書の著作権は公衆送信権を含めて東北大加齢研に帰属いたしますので、ご了承ください。※報告書の記載方法などについては、後日連絡します。また、共同プロジェクト研究に関するアンケートも実施する予定となっています。

10. 論文の提出

本共同研究の成果を論文として発表される場合には、謝辞として「東北大学加齢医学研究所における共同研究による」旨の文章を記載して下さいをお願い致します。その際、別刷り1部を「6. 申請書提出先」へ提出して下さい。なお、英文の場合には、以下の文例を参考にして下さい。

This work was partly supported by the Cooperative Research Project Program of Joint Usage/Research Center at the Institute of Development, Aging and Cancer, Tohoku University.

11. 知的財産権の取扱い

東北大学共同研究取扱規程を準用します。

12. 事故対応

・共同研究が採択され、学生が参画する場合は、「学生教育研究災害傷害保険」等に必ず加入し、所属機関の助教以上の教員、もしくは、加齢医学研究所の対応教員の監督下に実験等を実施してください。